

## 令和2年度第1回学校運営協議会議事録

実施日：令和2年6月7日

※メール、FAXなどで意見をあつめる形で実施

### 各委員からの意見、感想

・新高校3年目の完成年度に向けた重要な1年です。系統的なキャリア教育で、生徒に「夢」を描かせ、モジュール授業や入門科目等で、やればできるとの「希望」を持たせることに取り組んでください。また、教科のカリキュラムだけでなく、多様な体験（特に学校外との関わり）の場により、生徒に良い刺激を与えていただければと思います。

・「学校経営計画」は、非常にわかりやすくまとめられており、数値目標も適正であると感じます。

・第2回学校運営協議会で、ユネスコスクールとしての取組や、アサーションプログラムの結果や数値目標に至る取組内容や様子がうかがうことができるのが楽しみです。

・「学校経営計画」は、生徒の成長に主眼を置いた素晴らしいものだと感じました。

・生徒や保護者にもわかりやすい「できる・わかる・のびる」というキャッチフレーズは素晴らしいです。この言葉は生徒や保護者だけではなく、中学校の先生たちにも理解してもらいやすいと思います。エンパワメントスクールの目的はこの言葉に凝縮されています。学習だけではなく行事や部活動をやり切った「できた」という達成感、学習がわかる喜び、そしてその二つから自尊感情を高め、自分の「のびる」を信じられるようになるはずです。

そのためにはわかりやすい授業がベースになります。モジュール授業の内容はそれほど高くはありませんから、わかる生徒が多いと思います。国語・数学・英語を毎日学習する効果もあります。いわゆる「学び直し」は1年生のみなので、問題は2年生になってからかもしれません。授業アンケートや学校教育自己診断の学年別の違いが表れているのでしょうか。

・英検や情報試験を多くの生徒が受験していることはよいことです。「井の中の蛙」とならないためにも外部の刺激は必要です。成績優秀者には是非とも大

学進学などの実績も挙げてもらいたいものです。戦略として学校の売りにもなるからです。補習をされている先生方には頭が下がります。ただ二律背反する意見ですが、無理して大学には行かせない方がよい場合も多いのです。まず、学費問題です。家庭の経済力に期待できない場合は「奨学金」という多額の借金を背負うこととなります。また、大卒でも就職はいいとは限りません。むしろ、高校で就職指導をきちんと受けて就職する方が収入的に高額になることもあります。

・コロナ禍で長期の休みがあり、登校にプレッシャーを感じている生徒もいると思います。特に1年生については白紙状態です。担任だけではなく、教科担当者を含めた全教員がカウンセリングマインドを持って1年生に接することが求められる気がします。

・ユネスコスクールですからE S D教育です。ただし、最近はS D G sの方が幅を利かせています。もちろん、E S DもS D G sも目指すところは全く同じです。目的はどちらも『持続可能な社会を実現すること』です。生徒も先生も混乱していないか心配です。

・部活動の加入率目標を35%に引き上げたのはいいチャレンジだと思います。入部率が上がれば、学校への定着率そして、帰属意識も確実に増します。この取組みに力を入れてください。